



市制65周年

2008春日井市民第九演奏会

とき 2008.12.7 SUN 午後3時開演 春日井市民会館

主催 春日井市、春日井市教育委員会、(財)かすが市民文化財団、春日井市民第九演奏会実行委員会

共催 春日井市交響楽団、春日井市民第九合唱団

後援 中部大学、NHK名古屋放送局、中日新聞社

ごあいさつ



春日井市長 伊藤 太

年末の恒例行事となりました「春日井市民第九演奏会」にご来場いただき誠にありがとうございます。

この演奏会は、市民の公募による市民合唱団と市民の演奏家を中心に結成されたオーケストラが奏でる市民の手作りのものであり、平成5年12月に市制施行50周年記念事業のひとつとして開催して以来、年末の恒例行事として市民の皆様へ親しまれてまいりました。

これもひとえに、春日井市民第九合唱団と春日井市交響楽団をはじめ、関係の皆様方の音楽に対する熱い想いを絆にしたご尽力の賜物と心から感謝申し上げます。

市民の合唱団と市民のオーケストラを基盤としたこの演奏会は、地域文化に広がり向上をもたらし、本市の目指す「文化でつながるまち春日井」の実現になくてはならないものであると確信しております。

市制65周年となる本年は、指揮者にゲリット・プリースニッツ氏、ソリストには国内外で活躍する実力派の方々をお迎えし、演奏会を彩っていただきます。

新たな年が皆様にとって輝かしい年であることを祈念いたしますとともに、年の瀬のひとときを第九の演奏会でお楽しみください。



2008春日井市民第九演奏会実行委員会会長
中部大学 学監 三浦昌夫

本年も、毎年恒例の「春日井市民第九演奏会」にみなさまおそろいでおいでいただきありがとうございます。

今年は春日井市制65周年に当たります。15年前、市制50周年を盛大に祝ったのが、この「春日井市民第九演奏会」の初演奏でした。本年は、指揮者に「第九」初演の地ウィーンからウィーン・フォルクスオパーの専属指揮者ゲリット・プリースニッツさんをお招きしました。これまで以上に本格的な「第九」をお聴きかせできるものと存じます。

ソリストには、韓国オペラ界の第一人者呉承容(オウ・ソンニョ)さんをはじめ、ソプラノの福住恭子さん、アルトの北澤幸さん、テノールの松本薫平さんという第一線でご活躍の若き歌手のみなさまにもご出演いただきます。いつもながら、200名を超える市民の合唱団とコンサート・マスター加藤完二さんと市民のオーケストラも参加します。また、みなさまと感動の舞台をご一緒できる喜びを感じます。

この一年の幸せに感謝し、新しい年を迎える、春日井市民のための、市民による、市民の「春日井市民第九演奏会」です。この「変革」(チェンジ)の時代にあっても、心しなければならぬことは、「すべての人が、おたがいを大切にすゝる気持」、すなわち、「第九」で私たちが歌う「人類愛」でしょう。

フィナーレの全員合唱のアンコール「春日井賛歌」では、まわりのみなさまと声を合わせて歌いましょう。来年もまた、よき年でありますように。

プログラム

Program

ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン作曲
LUDWIG VAN BEETHOVEN (1770-1827)

交響曲第9番 二短調 作品125 「合唱つき」 Symphony No.9 in d-minor op.125 "Choral"

第1楽章 アレグロ マノン トロッポ, ウン ポコ マエストーソ
1mov. Allegro ma non troppo, un poco maestoso

第2楽章 モルト ヴィヴァーチェ
2mov. Molto vivace

第3楽章 アダージョ モルト エ カンタービレ
3mov. Adagio molt e cantabile

第4楽章 フィナーレ, プレスト-アレグロ アッサイ-レシタティーヴォ-アレグロ アッサイ
4mov. Finale, Presto - Allegro assai - Rezitativo - Allegro assai

指揮者

Conductor

ゲリット・プリースニッツ

Gerrit Priesnitz



ソプラノ Soprano

福住 恭子

Fukuzumi Kyoko

テノール Tenor

松本 薫平

Matsumoto Kumpei

アルト Alto

北澤 幸

Kitazawa Sachi

バリトン Baritone

呉 承容

Oh Sungnong



Music director

音楽監督 都築正道

Tsudzuki Masamichi

Sub conductor

合奏指導 加藤完二

Katoh Kanji

Chorus conductor

合唱指導 吉川 朗

Yoshikawa Akira



管弦楽 春日井市交響楽団

KASUGAI CITY PHILHARMONIC ORCHESTRA



合唱 春日井市民第九合唱団

KASUGAI CIVIL CHORUS OF THE 9TH SYMPHONY

出演者紹介



指揮者 ゲリット・プリースニッツ

ボン生まれのドイツの若手指揮者。現在、ウィーン・フォルクス・オパーで常任(レジデンス)指揮者を務めています。ザルツブルクのモーツァルトフェスティバルでデニス・デーヴィストヨルゲ・ロッターに指揮を学び、パウムガルトナー賞を受賞。EUのエラスムス計画とオーストリア基金から奨学金をえました。マスタークラスでイエナ・フィルを指揮。その他、クリスチャン・チンマーマンやクラウス・フローの助手として、ドイツ各地で指揮活動を始めました。その後、ポローニャやリンツやルツェルンの歌劇場でオペラやオペレッタを指揮して活躍。エルフルト歌劇場の常任を経て、現職へ。レパートリーは、モーツァルトやリヒャルト・シュトラウスのオペラをはじめとして、レハールやカールマンのオペレッタまで、数多くの舞台作品を含み、チャイコフスキーから現代音楽家にいたるオーケストラ作品も指揮しています。



ソプラノ 福住 恭子

大阪音楽大学卒業、同大学院オペラ研究室修了。2001年よりミラノ(イタリア)に留学。ミラノをはじめ、シチリア島・マントヴァなどイタリア各地でコンサートに出演するなど積極的に活動している。豊かな声量と、あふれる音楽性、親しみやすいキャラクター。彼女の奏でる天性の声は、人々の心に大きな感動と喜びを与えている。第21回イズマ

エレ・ヴォルトリーニ国際コンクール(イタリア)第2位。第1回国際音楽コンクール(マントヴァ・イタリア)第2位。オペラでは「トゥーランドット」リュウ役、「イル・トロヴァトーレ」レオノラ役等を好演。



アルト 北澤 幸

東京女子体育大学を経て桐朋学園短期大学・同短期大学専攻科修了。二期会「ボッペアの戴冠」でオペラデビュー。日生劇場「ジャンニ・スキッキ」をはじめ「ディドとエネアス」「蝶々夫人」「ヘンゼルとグレーテル」「ワルキューレ」など多数のオペラ・

オペレッタに出演。高い身体能力に裏付けされた豊かな表現力には定評があり、華麗なステージで好評を博している。二期会会員。



テノール 松本 薫平

京都市立堀川高等学校音楽科(現、京都市立音楽高等学校)を経て、東京藝術大学音楽学部音楽科卒業。高橋大海氏に師事。大学卒業後イタリアに留学し、フィオレンツァ・コッソット、イーヴォ・ヴィンコ、エディット・マルテッリ、ダンテ・マッツォーラの各氏に師事。1999年関西二期会35周年記念オペラ「ラ・ボエーム」のロドルフォでデビューし、同年「蝶々夫人」のピンカートンと立て続けに出演。ともに絶賛を博した。その他に「カルメン」のドン・ホセ、「カヴァレリア・ルスティカーナ」トゥリッドゥ、「ランメルモールのルチア」エドガルド、「椿姫」アルフレード、「リゴレット」マントヴァ公爵、「外套」ルイーザ、「トロヴァトーレ」マンリッコ、「ドン・カルロ」ドン・カルロ、「オテロ」オテロ、「道化師」カニオ、「ばらの騎士」テノール歌手、「こうもり」アルフレード、「コジファン・トゥッテ」フェランド、「ドン・ジョヴァンニ」ドン・オッターヴィオ、「魔笛」タミーノ、「沈黙」モキチなどに出演。第27回イタリア声楽コンクールソテノール特賞、第12回摂津音楽祭金賞及び大阪府知事賞、第2回松

方ホール音楽賞選考委員奨励賞、第13回宝塚ベガ音楽コンクール第3位、第74回日本音楽コンクール入選など多数入賞。平成13年度兵庫芸術奨励賞受賞。平成16年神戸市文化奨励賞受賞。ベートーヴェン「交響曲第9番」をはじめ、ヴェルディ「レクイエム」、プッチーニ「グロリア・ミサ」、マーラー「交響曲第8番」、オルフ「カルミナ・ブラーナ」などのソリストとしても活躍。現在、京都市立芸術大学、武庫川女子大学、神戸女学院大学、大阪芸術大学、兵庫県立西宮高校音楽科各講師。関西二期会会員。



バリトン 呉 承容

韓国慶北大学校芸術大学声楽科卒業。イタリアローマのサンタチェチリア音楽院に留学。エンツァ・フェラーリ氏とジュゼッペ・タデイ氏に師事。明治安田生命クオリティオブライフ文化財団と日本イタリア協会の奨学生でイタリアに留学。チェコのオストラヴァ国立劇場でソリストを勤める。モーツァルトの「レクイエム」やベートーヴェンの「第九」をはじめ、「椿姫」「ラ・ボエーム」「魔笛」「道化師」「リゴレット」などで常に主役を歌う。長久手国際声楽コンクール優勝をはじめイタリア、ヨーロッパ各地のコンクールでも成果を収め、現在、韓国ソウル国立オペラ団の専属ソリストで活躍中。韓国慶北大学校芸術大学声楽科講師。音楽性、歌唱力、声、そして人格を兼ね備えた大型バリトン。



音楽監督 都築 正道

中部大学現代教育学部教授。中部大学附属三浦記念図書館長。文学博士。専門は美学・芸術学・音楽学。春日井市交響楽団音楽監督。愛環音楽連盟理事長。朝日新聞音楽評担当。豊田市文化振興計画策定委員会委員長。豊田市文化芸術振興委員会委員長。豊田市芸術文化推奨事業審査委員会委員長。名古屋ナポリ協会会長。名古屋オペラサロン主宰者。NHK名古屋文化センター講師。名古屋モーツァルト協会顧問。カセラ国際ピアノコンクール副審査委員長(ナポリ)。主著:「楽劇:音と言葉の美学」(音楽之友社)「あくびなしの音楽講座:トスカ」(同)



コンサートマスター 合奏指導 加藤 完二

ヴァイオリンを尾島綾子・東儀幸各氏に師事。在学中より指揮を学び、卒業後関西二期会等で朝比奈隆氏他の副指揮を務めた。大阪音楽大学でのオペラ指揮を皮切りに、各地でオーケストラやオペラを指揮。特にアマチュアオーケストラのトレーニングは好評。ルーマニアの「第2回ディヌ・ニコレスク国際指揮者コンクール」入賞及び審査員特別賞受賞。6年後同国でオペラ「カヴァレリア・ルスティカーナ」他を客演指揮し、海外でも評判を得る。伊丹シティフィルハーモニー管弦楽団監督。クレフ室内管弦楽団主宰。



合唱指導 吉川 朗

愛知教育大学音楽科(ピアノ)卒業。同大学院(作曲)修了。名古屋芸術大学、名古屋オペラ協会、愛知県文化振興事業団、名古屋市文化振興事業団、名古屋二期会などに於いて、オペラ、オペレッタ、ミュージカルに携わる。「紫のドレス」でのオペラ・デビュー以来、種々のオペラなどを指揮。名古屋周辺の合唱団の音楽ディレクター、指揮をしている。最近、小牧市民音楽祭、豊明市民フェスティバルなどで企画・構成・演出・指揮など、活躍の場を広げている。第九指導は半田第九に始まり、ナゴヤシティ管弦楽団(現セントラル交響楽団)、一宮第九を歌う会、春日井市民第九合唱団、愛環音楽連盟、小牧第九など。名古屋芸術大学音楽学部オペラ研究室実技補助員、大垣女子短期大学非常勤講師、NHKナゴヤ・ニューサウンズ・オーケストラ指揮者を経て、現在フリー。

発声指導 江端 智哉 永友 弘子 山田 道子
ピアノ伴奏(合唱団) 竹内 理恵 松永祐未子 榛葉 邦江 放生會華子



オーケストラ 春日井市交響楽団

市民オーケである春日井市交響楽団は、「第九の演奏会を春日井でも開きたい」という私たち市民の希望から生まれました。市内の音楽愛好家を中心になって、「市民が演奏し、市民が聴く、春日井市民のオーケストラ」が、1990年(平成2年)11月に創立されました。愛称「カポ」(KAPO)は英字名称「KASUGAI CITY PHILHARMONIC ORCHESTRA」の頭文字をとったもので、イタリア語の「カポ」(capo 頭・先頭に立つ者)の思いもあります。毎年、7月の定期演奏会と12月の「春日井市民第九演奏会」を中心に、数多くのオーケストラ活動を行っています。団員は、会社員・公務員・教員・医師・主婦・学生・自営業者などからなる60名。私たちにとって、最大の喜びは、一人でも多くのみなさまに演奏会においていただき、クラシック音楽を好きになっていただくことです。そのために、「春日井で名曲の名演奏を」と心がけています。今年の「第九」も、大いに自信があります。ぜひ、お出かけ下さい。(団長・花村浩克)



合唱 春日井市民第九合唱団

春日井市民第九合唱団は、春日井市民第九演奏会のために、最高齢84歳から最年少10歳までの一般市民により編成された合唱団です。平成5年12月の春日井市制50周年を記念して開催された、ベートーヴェン作曲交響曲第九番の春日井市初演を期に作られ、今年で16回目の演奏会を迎えております。毎年公募による新しい方々を含め、総勢250名にも達する大合唱団です。平均年齢は60歳になるうかと、やや高いのですが、数年前から、中部大学混声合唱団の若い力の応援をいただき、元気に第九を歌っております。全体の半分近い人数の男声がいる合唱団は、全国的に非常にめずらしい存在です。7月に市長の出席を仰いで結団式を行い、毎週土曜日、吉川先生をはじめとする素晴らしい先生方の指導の下、気持ちも新たに練習に励んでまいりました。慣れないドイツ語の発音にも苦労しておりますが、ベートーヴェンの第九のテーマである、「人間はみな兄弟である」という歓びを我々自身も感じながら、演奏会においてくださる皆様方に、すこしでもその精神を感じ取っていただこうと精一杯歌います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。(団長・須藤章夫)

この世で見つけた幸せ

ー ベートーヴェンからのメッセージ ー

春日井市交響楽団音楽監督 都 築 正 道

異端の交響曲 ベートーヴェン(1770-1827)の「第九交響曲」(1824)は、終楽章に4人のソリストと合唱が入った異端の交響曲です。「なぜ交響曲の終楽章に声楽を加えたのか」といえば、この「第九番」が彼の最後の交響曲であり、その終楽章は、彼の一連の交響曲の最終楽章でもあるからです。音楽史を少しのぞいただけでも、最後の交響曲の最後の楽章が(結果的にそうなったとしても)その作曲家の従来の交響曲の構成とは全く違った異質なものである例は意外に多いのです。

ブラームスの「第四番」の終楽章(パッサカリア)、ブルックナーの「第九番」の終楽章(は完成されなかったので「テ・デウム」)、チャイコフスキーの『悲愴』の終楽章(アダージョ・ラメントーソ)、マーラーの「第九番」の終楽章(アダージョ=フィナーレ)と並べれば、単なる偶然であるとしても、少々気になるところです。(無意識であっても)交響曲の絶筆となることを予感した作曲家が、その最後の作品の最後の楽章だけ、極めて前例のない破格なものに仕上げたことは、私たちに何か特別な、例えば、フロイト的に心理的な感慨をもたらします。それは、ひょっとすると、後世の私たちに向けられた作曲者からの直接の「遺言」(マニフェスト)なのではなからうかーと思えるからです。

喜びにみちた調べ 特に、このベートーヴェンの「第九番」の終楽章こそ、正にベートーヴェンから私たちへ届けられた「メッセージ」であるといっいでいいでしょう。例えば、その良い例として、終楽章の長い序奏のあと、テキストとして用いられたシラーの詩が歌いだされる前に、バリトン・ソロがまるで宣言文を読むように朗唱する箇所が挙げられます。「おおわが友人たちよ、このような調べではなく、もっと心楽しく、喜びにみちた調べを歌おうではないか」と歌うこの冒頭での呼びかけは、シラーの詩を始める前にベートーヴェン自身が書き記した序詞です。この個人的な発言は、終楽章がベートーヴェンのマニフェスト(宣言文)であることをはっきりと現わしているといえましょう。

シラーとベートーヴェン ベートーヴェンが最後の交響曲の最後の楽章にテキストとして用いたのは、8節からなるシラーの詩「歓喜に寄せる頌歌」なのですが、その中から人類愛を力強く賛えた詩句を自由に抜粋して再構成したものです。しかし、ベートーヴェンは、この「第九交響曲」の完成に先立つ31年も前に、一度、シラーのこの詩に作曲をしようと試みたことがありました。1792年(22歳)、その時彼はボン大学の聴講生でした。シラーの詩の初版時の9節全部に歌を付け、通作歌曲として独立した合唱曲にしようと考えていたようです。しかし、「命名祝日」序曲(作品 115)にこの合唱曲の流用を思いついたものの、結局、『歓喜に寄せる頌歌』の音楽化の企ては実現しませんでした。その後も長い間、ベートーヴェンがこだわり続けてきたシラーの詩は、やっとのことで最後の交響曲に生を受けることとなります。

1824年5月7日ケルントナートール劇場で初演されたときには、それが時代をはるかに先取りしていたために、すべての人から理解され祝福された誕生とはなりませんでした。当時の人々にとってこの詩は、大衆になじみ深い宗教詩でも聖句でも古典詩でもない、彼らと同時代の詩人フリードリッヒ・シラー(1759-1805)の啓蒙思想やフリーメイソンの信念を語る現代詩でありました。このことが、当時のウィーンの人々に、この曲を「難解」なものと感じさせた原因のひとつでもあります。しかし、それ以上に彼らが強い戸惑いを覚えたのは、絶対音楽である交響曲に声楽を加えたベートーヴェンの前衛的な音楽技法でした。ベートーヴェン自身も、「この試みは単なる暴挙にすぎず、完全に間違いであって、いつか純粹音楽の終楽章を書こう」と弟子のツェルニーに語ったということです。

歓喜は神々の火花である しかし、ベートーヴェンが、この「間違い」をどれほど真剣に反省していたかは疑問です。結局、この改作案は実現されずに終わりました。私は、このエピソードにもかかわらず、「ベートーヴェンは、最後の交響曲が理解されないままに終わることを恐れず、あくまでも言葉によるメッ

セージの必要性を主張し、最後までその主張を放棄しなかったのだ」と思います。この曲には何か、人間として、作曲家として、社会に対して果さねばならぬベートーヴェンの「義務の念」といったものが強く感じられるからです。

ここで私たちは、次の挿話を思い出します。ある人が、シェーンベルクに尋ねましたー「どういう訳でベートーヴェンは、「第九交響曲」を乱雑だといわれながらも、書きつづけたのですか」。彼は言いました、「答は一つしか知らない。言わねばならぬことがあったからだ」。正にその通りで、彼には言わねばならぬことがあったのです。

冒頭の1節「歓喜は神々の火花である」がそれです。ここでの「歓喜」は、私たちが日ごろ思っているような、食べたり飲んだり遊んだりの「快楽」や「欲望」の結果としての「歓喜」のことではありません。詩をよく読んで見ますと、「欲望はウジ虫にくれてやった」という一節もあり、個人的な快楽や欲望をはっきり否定しています。シラーの言う「歓喜」とは、個人を離れて理想的な人類愛をめざす、極めて精神的な満足感や充実感を言うのでしょうか。一人の友と真の友人になった人、一人の優しい女性を勝ち得た人、その人の心が自分のものだと言える人ーこう言った人々こそ「歓喜」を知った人たちです。

この歓びの感情を知った人たちだけが、兄弟となるのです。鉄と鉄がガスや電気のバーナーで何千度にも熱せられると、どろどろと溶けだしてお互いがくっつくように、普段は別々の興味や考えや心をもつ人たちでも、「子どもが生まれた」「大学に合格した」「ノーベル文学賞をもらった」となるとみんなが肩を抱き合ったりします。なにか共通の喜びがあれば、それが火花となってすべての人の心を溶かし、一つに結びつけるのです。すなわち、「歓喜」は「共通体験から生まれる感動」のことだといっいでいいでしょう。

本日のみなさまのように、家族おそろいで、また、親しい友人たちと、恒例の地元の「第九」を聴くのもこの「歓喜」を求めてのことだと思われま

理想的な人類愛 さらに、「歓喜は、また、楽園からやってきた乙女だ。神々の火花によって、私たちが火のように酔うならば、そこで初めて歓喜の聖域に踏み込むことができるのだ」とシラーは歌います。「人類の心はもともと一つであったのだ。それが戦争や飢饉や恐慌や独裁といった時の流れで、いままでの友が新たな敵となり、仲間が仲間を殺したり嘲ったり軽蔑したりするようになったのだ」と。それほ

ど激しく憎み合い、もう修復が効かなくなった関係であっても、「歓喜はまた再び私たちの心をつなぎ合わせてくれる。これを魔法の力と言わずして何といおうか！」とシラーは人類の心の底に流れる歓喜の力の存在を力説しているのです。

もちろん、これはベートーヴェンのマニフェストでもあります。すなわち、個人を離れて理想的な人類愛をめざす、極めて精神的な満足感や充実感のことです。さらに、彼はいいますー「歓喜とはなにか。それは、この世で幸せを見つけたことをいうのだ、例えば、真の友を得た人、優しい女性と結婚した人、だれかに確かに愛されていると感じる人こそ、歓喜を知る人なのだ。もしあなたが、このどれも知らないのならば、私たちの仲間になることはできない。涙を流してこの仲間から去っていきなさい」と。

さあ、また新しい年を迎える私たちは、このシラーとベートーヴェンのメッセージに対してどう答えればいいのでしょうか。それを、本日の演奏を聴きながら一緒に考えてみることにいたしまし

作曲年代	1817年-1824年2月
初 演	1824年5月7日 ケルントナートール劇場
献 呈	プロシャ王フリードリヒ・ヴィルヘルム3世
出 版	1826年6月 マイツ市シュット社。総譜・管弦楽合唱パート譜・終楽章ピアノ版総譜出版
楽器編成	フルート・オーボエ・クラリネット・ファゴット(第4楽章でピッコロとコントラ・ファゴットが加わる)。トランペット(第2楽章と第4楽章にトロンボン3が加わる)。以上各2。ホルン・ティンパニ(第4楽章にはトライアングルとシンバルと大太鼓が加わる)。弦5部。ソプラノ、アルト、テナー、バリトンの各ソロと混声合唱。
第1楽章	快速に・ただし控え目に・そしてやや威厳をもって・二短調・2/4拍子(14分)
第2楽章	きわめて早く活発に 二短調・3/4拍子・スケルツォ(11分)
第3楽章	ごくゆっくりと歌うように・変口長調・4/4拍子・変奏曲(16分)
第4楽章	とても急速に 二短調・3/4拍子(28分) [全1時間09分]

第4楽章の解説

第4楽章は次の18の部分に分かれています。いよいよ交響曲に声楽(ソロと合唱)が登場します。

- 1 「序奏」(前3楽章の回帰とても急速に)二短調・3/4 拍子(開始小節数:1)
- 2 「喜びの歌」:オーケストラによる主題の呈示(はなはだ速く)二長調・4/4拍子(92)
- 3 「ベートーヴェンによるマニフェスト」(とても急速に)二短調・3/4拍子(208)
バリトン・ソロ O Freunde, nicht diese Töne! おお、友人たちよ、このような調べではない!
(レシタティーヴ) Sondern laszt uns angenehmere anstimmen, und freudenvollere!
もっと楽しく喜びに溢れた調べを歌おう。
- 4 「喜びの歌」:声楽による主題の呈示(はなはだ早く)二長調・4/4拍子(237)
バリトン・ソロ Freude! 歓喜よ!
合唱(バス) Freude! 歓喜よ!
バリトン・ソロ Freude! 歓喜よ!
合唱(バス) Freude! 歓喜よ!
バリトン・ソロ Freude, schöner Götterfunken, Tochter aus Elysium, 私たちは火に酔いしれて、
Wir betreten feuertrunken, 楽園から来た乙女よ、
Himmliche, dein Heiligtum! 神々しき者よ、あなたの聖所に踏みいる。
Deiner Zauber binden wieder, あなたの魔力は再び結びつけるのだ、
Was die Mode streng geteilt; 時流が鋭く引き裂いたものを。
Alle Menchen werden Brüder すべての人々は兄弟になる、
Wo dein sanfter Flügel weilt. あなたの優しい翼が広がるところに。
合唱 Deiner Zauber binden wieder, あなたの魔力は再び結びつけるのだ、
(アルト、テナー、バス) Was die Mode streng geteilt; 時流が鋭く引き裂いたものを。
Alle Menchen werden Brüder すべての人々は兄弟になる、
Wo dein sanfter Flügel weilt. あなたの優しい翼が広がるところに。
(間奏・4小節)
- 5 [第1変奏]=4重唱 二長調・4/4拍子(268)
3重唱 Wem der grosse Wurf gelungen, 人の友の友となる
(アルト、テナー、バリトン) Eines Freundes Freund zu sein, 大いなる企図が成就した者、
4重唱 Wer ein holdes Weib errungen, 一人の優しい女性を勝ち得た者は
Mische seinen Jubel ein! 喜びの声に唱和しなさい
Ja, wer auch nur eine Seele そうだ、この地上でただ一人でもその人の
Sein nennt auf dem Erdenrund! 心が自分の物だと言える人は唱和しなさい。
Und wer's nie gekonnt, der stehle そしてそれができなかった者は、
Weinend sich aus diesem Bund. 泣きながらこの仲間からたち去るがよい。
合唱 Ja, wer auch nur eine Seele そうだ、この地上でただ一人でもその人の
Sein nennt auf dem Erdenrund! 心が自分の物だと言える人は唱和しなさい。
Und wer's nie gekonnt, der stehle そしてそれができなかった者は、
Weinend sich aus diesem Bund. 泣きながらこの仲間からたち去るがよい。
(間奏・4小節)
- 6 [第2変奏]=4重唱 二長調・4/4拍子(297)
2重唱 Freude trinken alle Wesen すべての生き物は
(テナー、バリトン) An den Brüsten der Natur; 自然の乳房に触れて喜びを飲む。
3重唱 Alle Guten, alle Bösen すべて善き者も、悪しき者も
(アルト、テナー、バリトン) Folgen ihrer Rosenspur. その薔薇のような香りに誘われるのだ
- 7 [第3変奏](305)
4重唱 Küsse gab sie uns und Reben, 自然は私たちにキスとブドウと
Einen Freund, geprüft im Tod. 終生変らぬ友を与えてくれた。
Wollust ward dem Wurm gegeben, 肉欲はウジ虫にくれてやった、
Und der Cherub steht vor Gott! そして天使ケルビムが神の前に立つのだ!
- 8 [第4変奏](313)
合唱 K'sse gab sie uns und Reben, 自然は私たちにキスとブドウと
Einen Freund, geprüft im Tod. 終生変らぬ友を与えてくれた。
Wollust ward dem Wurm gegeben, 肉欲はウジ虫にくれてやった、
Und der Cherub steht vor Gott! そして天使ケルビムが神の前に立つのだ!
Und der Cherub steht vor Gott! そして天使ケルビムが神の前に立つのだ!
steht vor Gott! 神の前に立つのだ!
vor Gott! 神の前に!
- 9 [第5変奏](とても急速に、活発に、行進曲風に)変口長調・6/8拍子(331)
オーケストラだけによるトルコ行進曲
- 10 [第6変奏]=テナー・ソロと男声合唱による行進曲(375)
テナー・ソロ Froh, 進め、
Froh, wie seine Sonnen fliegen 天体の壮麗なプランによって
Durch des Himmels prächt'gen Plan, もろもろの太陽がへめぐるように喜ばしく
Lauftet, Br'der, eure Bahn, 進みなさい、兄弟たちよ、あなたの道を、
Freudig, wie ein Held zum Siegen. 勝利に向かう英雄のように喜びにみちて。
テナー・ソロと男声合唱 Lauftet, Brüder, eure Bahn, 進みなさい、兄弟たちよ、あなたの道を、
(テナー1、テナー2、バス) Freudig, wie ein Held zum Siegen. 勝利に向かう英雄のように喜びにみちて。

- 11 「喜びの歌」=再現部 二長調・6/8拍子(543)
合唱 Freude, schöner Götterfunken, Tochter aus Elysium, 私たちは火に酔いしれて、
Wir betreten feuertrunken, 神々しき者よ、あなたの聖所に踏みいる。
Himmliche, dein Heiligtum! あなたの魔力は再び結びつけるのだ、
Deiner Zauber binden wieder, 時流が鋭く引き裂いたものを。
Was die Mode streng geteilt; すべての人々は兄弟になる、
Alle Menchen werden Brüder, あなたの優しい翼が広がるところに。
Wo dein sanfter Flügel weilt.
(後奏・4小節)
- 12 「抱擁の主題」=呈示(やや遅く、威厳をもって)ト長調・3/2拍子(595)
男声合唱 Seid umschulingen, Millionen! 抱き合おう、百万の人よ!
Diesen Kuss der ganzen Welt! この口づけを全世界の人に!
全合唱 Seid umschulingen, Millionen! 抱き合おう、百万の人よ!
Diesen Kuss der ganzen Welt! この口づけを全世界の人に!
男声合唱 Brüder!—überm Sternenzelt 兄弟たちよ! 星空の上には
Muss ein lieber Vater wohnen. 一人の父が住みたまうに違いない。
(へ長調へ転調します)
全合唱 Brüder!—überm Sternenzelt 兄弟たちよ! 星空の上には
Muss ein lieber Vater wohnen. 一人の父が住みたまうに違いない。
- 13 「懐疑の主題」(ゆるやかに、急がないで、敬虔に)ト短調。3/2拍子。(627)
合唱 Ihr stürzt nieder, Millionen? ひざまづくのか、百万の人よ?
Ahnest du den Schöpfer, Welt? お前は創造主を予感するの、世界よ?
Such' ihn überm Sternenzelt! 星空の上に彼を求めよ!
über Sternen muss er wohnen. 星々のかなた、彼は必ず住みたまう。
über Sternen muss er wohnen. 星々のかなた、彼は必ず住みたまう。
- 14 「2重フーガ」(快速に激しく、常に音をはっきり出して)二長調・6/4拍子(654)
Seid umschulingen, Millionen! 抱き合おう、百万の人よ!
Diesen Kuss der ganzen Welt! この口づけを全世界の人に!
Freude, schöner Götterfunken, 歓喜よ、美しい神々の火花よ、
Tochter aus Elysium, 楽園から来た乙女よ、
Wir betreten feuertrunken, 私たちは火に酔いしれて、
Himmliche, dein Heiligtum! 神々しき者よ、あなたの聖所に踏みいる。
- 15 「懐疑の主題」=変奏(730)
合唱(バス) Ihr stürzt nieder, Millionen? ひざまづくのか、百万の人よ?
合唱(テナー) Ahnest du den Schöpfer, Welt? お前は創造主を予感するの、世界よ?
合唱(アルト) Such' ihn überm Sternenzelt! 星空の上に彼を求めよ!
全合唱 Such' ihn überm Sternenzelt! 星空の上に彼を求めよ!
Br'der! 兄弟たちよ!
Br'der!—überm Sternenzelt 兄弟たちよ! 星空の上には
Muss ein lieber Vater wohnen. 一人の父が住みたまうに違いない。
- 16 [第7変奏]=4重唱(快速に、ただし控え目に)二長調・2/2拍子(763)
4重唱 Freude Tochter aus Elysium, 歓喜よ、楽園から来た乙女よ、
Tochter Tochter aus Elysium, 乙女よ、楽園から来た乙女よ、
Deiner Zauber binden wieder, あなたの魔力は再び結びつけるのだ、
Was die Mode streng geteilt; 時流が鋭く引き裂いたものを。
4重唱と合唱 Deiner Zauber binden wieder, あなたの魔力は再び結びつけるのだ、
Was die Mode streng geteilt; 時流が鋭く引き裂いたものを。
Alle Menchen Alle Menchen すべての人々は、すべての人々は、
合唱 Alle Menchen werden Brüder, すべての人々は兄弟になる、
Wo dein sanfter Flügel weilt. あなたの優しい翼が広がるところに。
- 17 [第8変奏](814)
合唱 Deiner Zauber binden wieder, あなたの魔力は再び結びつけるのだ、
Was die Mode streng geteilt; 時流が鋭く引き裂いたものを。
Alle Menchen werden Brüder, すべての人々は兄弟になる、
4重唱 Alle Menchen werden Brüder, すべての人々は兄弟になる、
Wo dein sanfter Flügel weilt. あなたの優しい翼が広がるところに。
- 18 「コーダ」(きわめて早く)二長調・2/2拍子(843)
合唱 Seid umschulingen, Millionen! 抱き合おう、百万の人よ!
Diesen Kuss der ganzen Welt! この口づけを全世界の人に!
Br'der!—überm Sternenzelt 兄弟たちよ! 星空の上には
Muss ein lieber Vater wohnen. 一人の父が住みたまうに違いない。
Seid umschulingen, Millionen! 抱き合おう、百万の人よ!
Diesen Kuss der ganzen Welt! この口づけを全世界の人に!
Freude, schöner Götterfunken, 歓喜よ、美しい神々の火花よ、
Tochter aus Elysium, 楽園から来た乙女よ、
Freude, schöner Götterfunken, 歓喜よ、美しい神々の火花よ。

みんなで歌おう、春日井賛歌を…

< 歓喜の歌 >

作詞 ● なかにし礼

1. あいこそかんにきにみち
びくひーかりさえぎる
くなんをこえてすすーま
んかんにきのいたーだき
ふみーしめたときわーれ
らはきょうだーいせかいはひーと
つかんきのいたーだきふみー
しめたときわーれらはきょう
だーいせかいはひーとつ

1. 愛こそ歓喜にみちびく光
さえぎる苦難を越えて進まん
歓喜の頂^{いただ}き踏みしめた時
我らは兄弟世界は一つ
歓喜の頂^{いただ}き踏みしめた時
我らは兄弟世界は一つ

2. 気高^{けだか}き乙女を勝ち得たものよ
手を取り歓呼の叫びをあげよ
人間一人で何が出来よう
愛なき孤独の人は立ち去れ
人間一人で何が出来よう
愛なき孤独の人は立ち去れ